

第36回 経営協議会 議事要録

日 時 平成23年6月23日（木）13時30分～14時42分

場 所 事務局第二会議室

出席者 宮田亮平学長、三浦春政理事、井橋光平理事、
池田政治美術学部長、植田克己音楽学部長、堀越謙三大学院映像研究科長、
石田義雄委員、高階秀爾委員、滝久雄委員、中村胤夫委員、福井俊彦委員

欠席者 遠山敦子委員
渡邊健二理事、多田羅迪夫学長特命、関出大学美術館長

陪 席 監事：中島尚正監事、竹内雄也監事、
北郷 悟理事、宮廻正明学長特命・社会連携センター長、
田口榮一附属図書館長、杉本和寛言語・音声トレーニングセンター長

○ 議事に先立ち、議長から、新任の経営協議会委員について、下記のとおり紹介があった。

- ・ 堀越謙三 大学院映像研究科長（藤幡正樹 前大学院映像研究科長後任）

議題

1. 平成24年度概算要求に係る重点事項の概要について【会計課】【施設課】
議長から標記のことについて提案があり、三浦理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
2. 平成22年度財務諸表（案）について
【財務状況の概要】【財務諸表】【決算報告書】【事業報告書】
議長から標記のことについて提案があり、三浦理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
3. 平成22事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について
議長から標記のことについて提案があり、三浦理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
4. 平成23事業年度の業務運営に関する計画の変更について
議長から標記のことについて提案があり、三浦理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
5. 学生宿舎整備事業の実施について
議長から標記のことについて提案があり、三浦理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
6. その他
特になし

報告及び連絡事項

1. 第1期中期目標期間の業務の実績に関する評価の結果について
標記のことについて、三浦理事から資料に基づき報告があった。
2. 平成22年度実施大学機関別認証評価評価の結果について
標記のことについて、三浦理事から資料に基づき報告があった。
3. 東京芸術大学図書管理要項等の一部改正について
標記のことについて、会計課長から資料に基づき報告があった。
4. その他（昨今の本学をめぐる諸情勢について）
 - 議長から、下記の事項について報告があった。
 - ・ 東京芸術大学が行う震災復興支援について
 - ・ 藝祭初日の9月2日（金）に、「入学セレモニー」を予定している件について

学外委員からの主な意見

- これまであまり見られなかったが、藝大も社会へ打って出るようになり、それが着実に成果をあげ、良い方向に変わってきている。これからは国際的活動もいっそう進めていただきたい。
- 学長の裁量となる資金があることはよいことである。
- 産業構造上、観光業は重要位置を占めるが、震災による風評被害などにより、日本がこれまで築いてきたものが揺らぎ、海外から人がこないようになってきている。いろいろな分野の協力が必要であるが、藝大でもこれらを意識した、例えば音楽での国際交流など、活動の手足を広げていただけるとありがたい。
- これからどのような国の形を作っていくか、これまでは経済中心の体系できたが、これからは安全、文化芸術が中心となっていくべきかと考える。そのためには藝大はこれまで以上にもっと前に出て、国の予算に縛られることなく、世の中の人や海外からも価値があると認められるプロジェクトを、その体系作りも含めて実施してもらいたい。
- 国際的には、日本は不要であるとの論調もあるが、今後どのようなようになっていくかが注目されている。そのためには何をやるかが重要で、それによって危険と感じ出て行った人も戻ってくる。
- 風評被害的なことは展覧会の中止などにも見られるが、だいぶ回復方向にある。その関連でいえば、藝大には歴史の蓄積の上に現代の新しい部分もあり、これまでもそれを一般社会に解放してきたが、そのひとつとして、上野の山のいろいろな機関とこれまで以上に連携プレイを推進し、発信してはいかがか。
- 戦後、日本は価値体系に経済よりの偏りがあったが、日本には世界に誇れる技術と芸術文化があり、今度の震災を機に、日本はその体系を見直す時期であると考えます。ますます学長の活躍が期待される。